



小松さんに寄せられた内部告発資料には、上記の「スリップ痕」を捏造したとされる警察官の署名とその手口が明記されている



無罪を訴えながら収監された片岡さん

「証拠捏造」を行った可能性があることを知った。知県警を批判する街宣活動が続いてきたのは事実だ。それには、彼なりの理由があった。土地改良換地土という専門資格を取得し、長年、さまざまな土地改良事業に携わってきた小松さんは、2006年に発生した「高知白バイ事件」(白バイとスクールバスの衝突死亡事故)で、高知県警が「証拠捏造」を行った可能性があることを知った。

「高知白バイ事件は、高知県警のエゴと自己保身によって捏造されたものです。私のもとには県警内部からかなり具体的な内部告発が寄せられています。彼らはそれが流布されることを恐れて私を追い詰めるのでしよう。柳原さん、ぜひ話を聞いてください」

「事故から8カ月もたつて、検察官から黒々としたバスのブレーキ痕の写真を初めて見せられたときは、頭の中が真っ白になりました。私はたしかに止まっていたんです。急ブレーキをかけてような運転は絶対にしていません……」

「高知白バイ事件は、高知県警のエゴと自己保身によって捏造されたものです。私のもとには県警内部からかなり具体的な内部告発が寄せられています。彼らはそれが流布されることを恐れて私を追い詰めるのでしよう。柳原さん、ぜひ話を聞いてください」

県警本部長の官舎付近で本部長をなじるよさこい節の替え歌を大声で歌った」と。2つ目は「同年10月、警察官舎付近で大声を上げた」こと。これらが、軽犯罪法1条14号「公務員の制止をきかずに、人声、楽器、ラジオなどの音を異常に大きく出して静穏を害し近隣に迷惑をかけた者」にあたりとされたのだ。

知県警を批判する街宣活動が続いてきたのは事実だ。それには、彼なりの理由があった。土地改良換地土という専門資格を取得し、長年、さまざまな土地改良事業に携わってきた小松さんは、2006年に発生した「高知白バイ事件」(白バイとスクールバスの衝突死亡事故)で、高知県警が「証拠捏造」を行った可能性があることを知った。

罪のないひとりの運転手を刑務所にまで追い込んだことに大きな義憤を覚えた小松さんは退職後、県警本部の前や市内の繁華街で「辻立ち」を行い、県警の罪を糾弾してきたのだ。しかし、彼の活動の本当のきっかけは、40年以上前のある事件にさかのぼる。実は、高知県の土木部長をしていた小松さんの父親は、身に覚えのない収賄罪で逮捕された。一家の安定した暮らしは、この件でどん底に突き落とされ、当時、早稲田大学の学生だった小松さんも、中退を余儀なくされた。それから、小松さんは父親が冤罪被害者であることを訴え、白バイ事件の発生前から、警察や検察のさまざまな捜査に異議を唱え続けてきたのだ。

生田弁護士は、怒りを隠さない様子で語る。「本件はまさに公訴権乱用、公務員職権乱用罪に該当します。そもそも、小松さんが問題の行動をとった際、目の前には警官がいたにもかかわらず、制止も、現行犯逮捕もしていない、つまり、軽犯罪法の要件にはあたらぬのです」

「高知白バイ事件は、高知県警のエゴと自己保身によって捏造されたものです。私のもとには県警内部からかなり具体的な内部告発が寄せられています。彼らはそれが流布されることを恐れて私を追い詰めるのでしよう。柳原さん、ぜひ話を聞いてください」

事件に異状に反応する高知県警の挙動不審

実は、「高知白バイ事件」をメディアで最初に取上げたのは私だった。同時期、隣の愛媛県でも白バイと高校生の衝突事故が発生しており、大問題になっていた。その取材記事を偶然目にした「高知白バイ事件」のバス運転手・片岡晴彦さんが、自身の事件とあまりに同じような処理が行われていることに驚いて私に連絡をしてこられたのがきっかけだった。あのときの、片岡さんの憔悴しきった声を、私は今も鮮明に覚えている。「事故から8カ月もたつて、検察官から黒々としたバスのブレーキ痕の写真を初めて見せられたときは、頭の中が真っ白になりました。私はたしかに止まっていたんです。急ブレーキをかけてような運転は絶対にしていません……」

「口封じ逮捕」された告発者の「爆弾情報」 終わらない「高知白バイ事件」 内部告発が語る「捜査の闇」

「県警幹部が「偽装工作」を会議で告白した」 ——良識派の「告発」に大揺れの 高知県警はいまどうなっているのか。

取材・文/柳原三佳 撮影/横浜大輔



のぼりを手に街宣活動を行った小松さん

2006年に高知県で起きた「高知白バイ事件」。スクールバスと白バイが衝突し、白バイ隊員が死亡したこの事件は、警察の「証拠捏造」が疑われながら、バス運転手側に実刑判決が下された。現在、新たな証拠とともに裁判のやり直し(再審請求)を求めているバス運転手を支援していた人物がいた。高知市に住む土地改良換地士の小松満裕氏(65)である。

「市民の社会活動を阻止するため、ここまであくどいことがなされています。高知県警の不正、腐敗、検察庁、裁判所の加担の現実を知っていただきたく、資料をお送りします」

「高知白バイ事件とは?」
2006年3月3日、高知県吾川郡(現・高知市)で発生したスクールバスと白バイの衝突事故。白バイに乗っていた当時26歳の巡査長は死亡した。



多くの識者、関係者が冤罪を指摘する

なっていたのだから。しかも、その写真はあまりにも不自然なものだった。バスにはABS（アンチロックブレーキシステム）がついていた。中には、22名の中学生が乗っており、私が数名に話を聞いたところ、誰ひとりとして急ブレーキの衝撃は感じていなかった。そもそも、運転者にブレーキ痕を確認せず、その写真も撮っていないなど、死亡事故の捜査としては論外である。

赤通部の中にも、腐っていない警察職員がいることを証明します。
赤通部は、正義ある警官で大混乱です。
警察署、赤通部は、正義ある警官で大混乱です。
死亡した事故は、自分が、金銭の場で「春野で白バイ隊員が自分、当時の、過失割合を説明する」と、担当した。ながら声を浴びせ、「〇〇対〇〇で処理するよう命じた。自分は、申しわけ無いと思っています。」等、発言しているようです。
再審決定を左右する話です。早急に、弁護士（氏名が判明しませんが）の先生に連絡して下さい。この警察から、警察は、逃げることで済ませません。

小松さんに寄せられた内部告発の一部。警察内部の「良識ある勢力」が大きな声を上げ始めたことを伝えている

題にされるべきだった。ところが、生田弁護士から信じられないような連絡が入ったのは、それから間もなくのことだった。

「7月12日に小松さんがまた逮捕されてしまいました。これで25回目です。今、高知刑務所内の拘留所に勾留されているんですが、接見禁止で面会もできない状態です。否認しているため、今回は長くかかるかもしれません……」

「今回も軽犯罪法ですか？」
「いえ、今度は詐欺罪です。小松さんは生活保護を受けていたのに、過去に手掛けた不在者神社の財産管財人の報酬が、数回に分けて約72万円振り込まれたことを福祉事務所に届けず、計63万5681円の生活扶助費をだまし取るうとした、そういう罪です」

起訴状には、「人を欺いて財物を交付させるとともに、財産上不法の利益を得た……」と書かれていた。生田弁護士は、呆れたように言う。

「高知県警は盗聴しているはずだ」

8月某日、それでも私は小松さんとの約束通り、高知へ出向いた。が、その日になっても解放されることはなく、もちろん面会もかなわなかった。

翌日、私は高知県四万十市に住む元高知県警の池内延雄氏と面談することができた。池内氏は鑑識課を経て、県内の駐在所勤務を転々とした後、2007年に高知県警を早期退職。その後は、高知県で発生した銀行員失踪事件の疑惑を追及する「悪魔と踊ろう」と題したブログで、県警の不祥事などについて積極的に発言し、高知白バイ事件についても支援を続けてきた気骨の人である。



高知県警の内情を語る元警官の池内さん

「おそらく警察は、電話盗聴はもちろん、銀行に照会をかけて金の出入りをチェックし、ありとあらゆる手段で逮捕の時期をさぐっていたはずだ。逆に言えば、それほど小松さんの存在が怖いんでしょう。今回の逮捕は口封じ以外の何物でもありません。外に出すな、接触させな、まさに、検察や警察が逮捕監禁罪で逮捕されるべき事案です」

実際に、小松さんのもとに寄せられた内部告発には、極めて具体的なものが多い。2013年5月18日付のハガキにはこうある。
（高知南警察署のM課長が、会議の場で「春野で白バイ隊員が死亡した事故は、自分が×課（ハガキは実名）に勤務していた時、担当した。当時の幹部P氏（同）に過失割合を説明すると、P氏は自分に罵声を浴びせ、

一〇〇対〇〇で処理するよう命じた。自分は、不本意ながら怖くてそれに従った。今も自分のしたことを強く反省し、相手に申しわけ無いと思っっている」等、発言している……」

差出人は匿名だが、これが事実なら片岡さんの無罪は証明されるはずだ。

小松さんは次々と寄せられる内部告発について自分なりに裏を取り、高知地検に宛てて何度も告発状を提出してきたという。

池内さんは語る。

「ブレーキ痕捏造のような作業は、上層部で下書きを作って部下に指示をしないととてもやり遂げられません。仮に、水とブラシで道路をこすって描いたとすると、その場でかなりの人間が見ていたはずだ。最近、県警内部では違反や犯罪に手を染める警察官が続出しているようで、小松さんに寄せられた情報によれば、『俺を処分するならば、白バイ事件の真相をばらすぞ』という居直りに、本部長も処分に踏み切れずにいるようです。結果的に罪を犯した署員のほうが出世してい

くので、周囲からは相当な不満が噴出してきます。白バイ事件の処理に不満を持っている署員は掃いて捨てるほどいますよ」

小松さんのもとにはこのほかにも、

①土佐警察署の男性警察官が住居侵入で現行犯逮捕された。

②高知南警察署の巡查が女子トイレに盗撮カメラを仕掛けて現行犯逮捕された。

③宿毛警察署の巡査長が警察手帳を紛失しその後退職した。

など、処分保留となった犯罪例が実名を挙げて寄せ



事故現場を指差す片岡さん。小松さんの不当逮捕に憤る

「この国には「正義」がないというのか」

生田弁護士は、ため息をつきながらこう訴える。「警察や検察は『個人の秘密の保護』を強調していますが、実際は筒抜けです。今後はそこを問題にしていかなければいけない。人間、誰しも多少の欠点や過失はあるものです。それをいち

いち詐欺だなんだとやられていてはどうすることもできません。いずれにせよ、本件の諸悪の根源は、高知県警が白バイ事件でバスのスリップ痕を捏造したことにある。それが、冤罪に次ぐ冤罪を生み出しているのです。とにかく、この現状を多くの方に知っていただきたいのです」

25回も逮捕され、ときには命の危険にさらされながらも、捨て身で高知県警の問題を訴えてきた小松満裕さん。彼は今、閉ざされた拘留所の中で何を思うのだろう。そして、地元メディアがほとんど報じないこの闘いは、今後どうなっていくのか……。

片岡さんは語る。
「小松さんの活動には大変感謝しています。でも、結果的に私の事件がきっかけでこのようになり、心が痛みます。県警内には正義感のある警察官もたくさんおられます。彼らの内部告発を支えに、この先も闘っていきたいと思います」

高知白バイ事件の再審請求は、今も進行中である。